

北海道浮魚ニュース

平成 19(2007)年度 18 号 (通巻 No.251)

2007 年 9 月 25 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

平成 19 年度オホーツク海サンマ漁況見通し

北海道立釧路水産試験場・網走水産試験場・稚内水産試験場および独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所・北海道区水産研究所が協議を行い、9月21日に「2007年(H19年)オホーツク海沿岸におけるサンマ漁況の見通し」を発表しましたので、内容を要約してお知らせします。

【漁況見通し】

来遊量 : 来遊は少ない

来遊時期 : 北海道沿岸域への来遊は 10 月上旬以降

1. オホーツク海で漁獲されるサンマの回遊 (予備知識)

例年オホーツク海で漁獲対象となる魚群は中型・小型魚が主体で、この群は南部千島太平洋側へ接岸したものの一部が、7月から8月にオホーツク海へ移動・回遊するものと考えられます。したがって、7月から8月に太平洋海域に分布する中型・小型魚の分布量が多く、なおかつ南部千島海域の表面水温がサンマの移動・回遊に適していれば、オホーツク海への来遊量は多くなると考えられます。また、オホーツク海に回遊したサンマは、8月から9月頃はオホーツク海の中南部海域に広く分布しますが、9月以降に海水温の低下にともない、比較的水温が高い(10℃以上)北海道沿岸域へと移動し、そこで漁場が形成されます。

2. 来遊資源量

・6月から8月の太平洋における中型・小型魚の分布量

東北区水産研究所が今年の漁期前(6月から7月)に実施した中層トロール調査結果では、太平洋全体に分布する中型・小型魚は多いものの、オホーツク海への来遊が期待される東経162度以西の日本近海に分布する中型・小型魚は、昨年(73.2億尾)よりも少なく、18.6億尾と推定されました。

今年7~8月の太平洋海域(主に東経150度以西)におけるサンマ棒受け網の漁獲物は大型魚が主体で、中型・小型魚の漁獲尾数は0.48億尾と推定され、昨年(0.41億尾)よりも若干増加しましたが、2003年以降低い水準で推移しています(図1)。

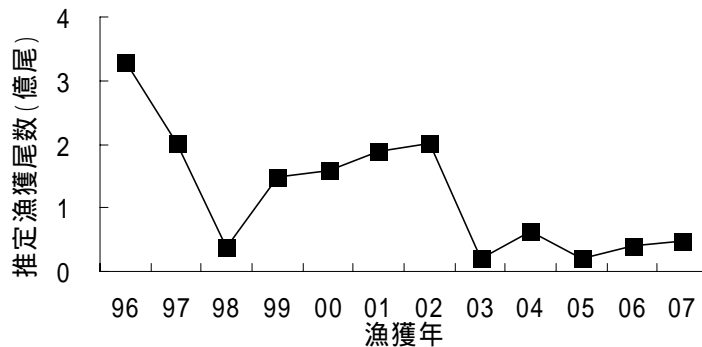


図1 太平洋海域における中型・小型サンマの推定漁獲尾数(8月下旬まで)

魚体説明 : 特大魚(体長32cm以上), 大型魚(29-31cm台), 中型魚(24-28cm台)
小型魚(20-23cm台), ジャミ(20cm未満)

・オホーツク海へ回遊する海況条件

7月から8月の南千島海域における表面水温が高い年には、サンマがオホーツク海へ回遊する条件が良好であると考えられています。今年の7月中旬から8月下旬の国後水道周辺の南千島海域は、7月中旬から7月下旬にかけて10以上の水に覆われた海域の割合が2~5割と少なく、昇温が遅かったものの、8月上旬以降はほぼ全域が10以上の水に覆われていました。従って、今年の太平洋からオホーツク海へ回遊する海況条件は、近年の中では水温の上昇がやや遅かったものの比較的良好であったと考えられます。

・オホーツク海における目視調査結果

8月23日~25日に釧路水産試験場試験調査船北辰丸により網走沖~知床半島沖のオホーツク海でスルメイカ調査が行われ、夜間サンマの目視調査を実施しました。

表面水温は網走沖で17台、知床半島沖では19台であり、この時期のサンマの分布に適するとされる15よりもやや高い水温でした。

夜間、停船中の目視調査では、昨年と同様まとまった群れはほとんど見られず、ジャミサンマが数尾散見される程度で、標本採集にも至りませんでした。また、9月中旬現在で、オホーツク海における他漁業によるサンマの混獲情報や目視情報もほとんどありません。

3. 北海道沿岸域への来遊時期

紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の間には、週間平均表面水温の年最高値が17以上の年に限れば、水温が高い年ほど初漁日が遅くなる傾向が見られます(図2)。

今年9月中旬までの週間平均表面水温の最高値は、9月第1週の18.4でした(図2)。これは昨年よりも2低いのですが、最高値を示した時期は昨年より遅くなりました。また、この水温を過去の初漁日と水温のデータに照らし合わせると、初漁日は10月上旬以降と推定されました。

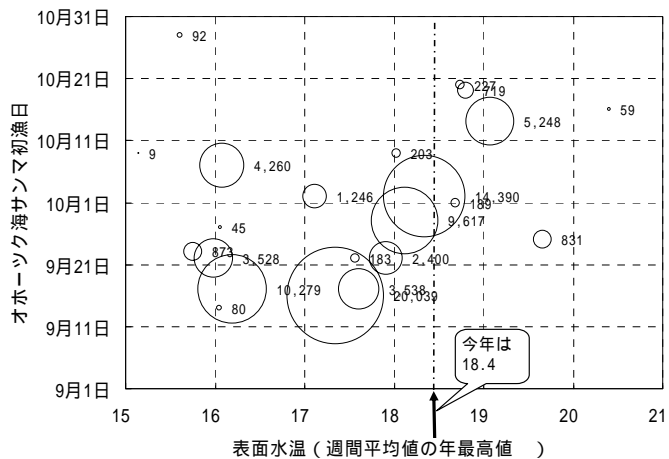


図2 紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の関係
 表面水温は北緯44度~45度、東経143度~144度の海域
 図中の数字は漁獲量(トン)を示す
 「」が大きい程漁獲量が多い

従って、今年は日本近海の太平洋海域に分布するサンマの中型・小型魚の資源量が少なく、その漁獲尾数も2003年以降低位で推移していること、オホーツク海における目視調査でも漁獲対象にならないジャミサンマが数尾しか発見できなかったことから、北海道のオホーツク海沿岸へ来遊するサンマは少なく、その来遊時期は10月上旬以降と推定されました。

5. その他

オホーツク海で操業する棒受網船の多くは太平洋から回航してくるため、来遊資源量が十分ならば、漁獲量はこの回航隻数と操業期間(延べ操業隻数)に左右されます。また、9月中旬・下旬の道東太平洋の漁況が良好である年はそこで操業を続けるため、オホーツク海への回航隻数は少なくなります。このため、この時期の道東太平洋の漁況がオホーツク海の漁獲量を決定する主要因の一つになっています。今年9月中旬現在で道東太平洋海域の漁況は良好で、このまま好漁が続けばオホーツク海へ回航する漁船が少なくなる可能性があります。

(文責：釧路水産試験場資源管理部，TEL:0154-23-6222，FAX:0154-23-6225)